



カトーモーター
新潟県燕市小高6245-1
☎0256-62-6516
www.katomotor.co.jp

新しいクルマを作る
新潟の燕三条といえば、金属加工品、タンスなどの木製日用品をはじめとしたもの作りの町。そんな土地柄で、あらゆる形状のキャンピングカーを自社製造するのがカトーモーターだ。
同社の創業は1956年のこと。バイクやクルマの整備工場としてスタートしたのが始まりである。
1983年には加藤次巳智さんが代表に就任。当初こそ先代

前略

日本全国
キャンピングカー
ビルダー巡り



今月のSHOP



カトーモーター
編

カトーモーター代表・加藤次巳智。'56年創業のカトーモーター。国内自社一貫生産にこだわったクオリティの高いキャンピングカー製造が特徴だ。キャンピングカーだけでなく、トレーラーハウスや某鉄道会社の練習車両も製造、過去には電動スクーターも開発するなど守備範囲は広いのだ。

匠の 仕事場より

Takumi

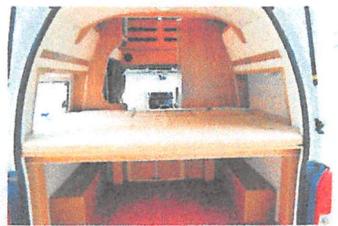
これからキャンピングカーを買おうとする人も、すでに持つていて知識を深めたいアナタも、ニッポンの技術力を具現化する各ビルダーの姿勢をその製作現場から見よう。
4回目は内装に天然の木材を使用するカトーモーターである。

TEXT&PHOTO: 品田直人

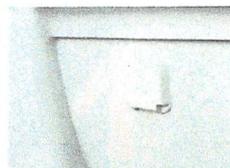
手間ヒマかけた「国内自社一貫生産」



●天然木をふんだんに使用した内装は、すべてが自社製だけあってディテールまで同一イメージではたがない。木目の美しさは天然ものならではだ。入ってみるとわかるが、接着剤などはホルムアルデヒドを発生しない最高等級のものを使用している。リフォームやアフターケアにも対応する



●シート表皮はすべて同じファブリック製に統一。ここには写っていないが、運転席や助手席もただかぶせるだけのカバーだけでなく、純正同様のパターンを起こした専用用品を自社で製造しているのだ



●冷蔵庫が標準装備のカートモーター車。それとセットで必ず設置されているのが排熱ファン。冷蔵庫の効率と快適な室内環境を保つために必須のパーツである。とにかく作りが良心的なのだ



●完成間近のDD（ダブルデルスタイル）があったので、内部を見せてもらった。このモデルはスーパーロングハイルーフをベースとして、純正のボディとFRPの2重構造とした個性が光るモデルだ。価格は640万3000円〜となっている

冬暖かく夏涼しい、過ごしやすいやすさを極める



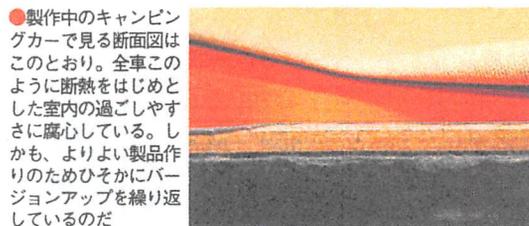
●無垢のナラ材を使用した窓枠が特徴のカートモーター。質感はいいが飾りではない。冷気を伝えにくいことや、湿気を吸収したりといいことづくめ。クルマの窓と木枠の間にカーテンを設置するインナーカーテンも同社が初めて採用した装備。これもまた断熱、結露対策に効果があるためだ。デメリットは作るのに手間がかかること。説明してくれたのは総括部長の古澤清隆さん



●ボディと内装の間には、カートモーターオリジナルの吸音断熱素材を採用。結露を防止、有害物質を含まないどころか吸着する効果もあり、車内の空気を清浄に保つ効果もある。見えないところもこのこだわりようなのだ



●さらにはフロア。コンパネの上に断熱材、ウレタンのクッション、重歩行用のボンリウム（病院などで採用）という4層構造なのだ。ボンリウムの裏側にはシートで補強されているのが重歩行用。ここまでいいに作られているのだ



●製作中のキャンピングカーで見る断面図はこのとおり。全車このように断熱をはじめとした室内の過ごしやすさに腐心している。しかも、よりよい製品作りのためひそかにバージョンアップを繰り返しているのだ

の業種をそのまま引き継いだのが、整備業はクルマを直せて当たり前。かといつて直して感謝されることなどほほえない状況は、勤労意欲をそぐ結果に。常人なら仕事とはそんなものだろうで済みますのだから、アメリカ留学経験もある加藤代表はそこで新しい事業の模索を開始。考え方が人一倍柔軟なのだ。

とはいえ、異業種にいきなりスイッチして成功しようなどと考えるほどかぶき者（？）ではない。そこで自動車に関連することでも何か新しいことを、と始めたのがキャンピングカーなのである。

自社でいきなり製造から始めるのも難しいので、最初は横浜モーターセールスの販売店という形でキャンピングカー事業をスタート。1988年のことだ。しかし、ただ売るだけにあらず、そのキャブコンに販売店として独自のオプションを装着することによって自身もクルマの作り方を学び、オリジナルのキャンピングカーを製造するための下準備ともしていた。

これが反響を呼び、スタートから1年で10台もの好セールスを記録。「もの作りの町」のコンプレックスを生かし、オリジナルのキャンピングカーを作ることができるかもしれない、と

匠の Takumi 仕事場より

国産天然へのこだわり



●国産のナラ材を確保。ここから自社で製材することで、キャンピングカーの家具とするわけだ。木目や木の色がそれぞれ異なるため、天然木材の扱いは非常に難しいのである。



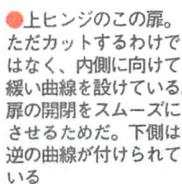
●天然素材を用いるこだわりはここまで徹底している。電装品のフタや室内換気口まで自社で製造しているのだ。



●家具の製作の現場も見学することができた



●つき板の家具に開口部を追加中。木目が1枚の板で自然になるよう、加工にあたってコツを要する部分だ



●上ヒンジのこの扉。ただカットするわけではなく、内側に向けて緩い曲線を設けている。扉の開閉をスムーズにさせるためだ。下側は逆の曲線が付けられている



1作りはスタートした。それがローザベースのバスコンだ。

当時のカトーモーターでは、

自動車整備はプロだが家具は作

れなかった。単純なものこそジ

グソーで切り抜いたりしたもの

の、多くの家具は外注とした。

自社でオリジナル車を製作する

という志に背いてしまった部分

ではあるが、こだわりにこだわ

って製作されたそのクルマは、

現在もオーナーに愛乗されている

ほどだという。この過剰品質

ともいえる耐久性を持たせた当

初の作り方は、今日まで変わっ

てはいない。

ひたすらいいものを ユーザー目線で

1989年にローザを製作する

という、いきなり実践。方式

からキャンピングカー作りをス

タートしたカトーモーターは、

それに続くモデルを製作するこ

とに。さすがにバスコンはユー

ザー層が限られてしまうので、

ベースはハイエースとした。そ

れまでの日本製キャンピングカ

ーになかった。天然の木製家具

をふんだんに使用して製作され

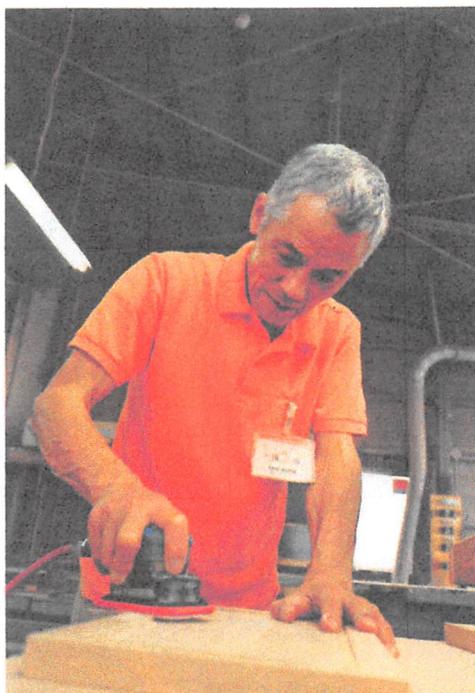
ており、ローザ製作の際に学ん

だものを愚直にスケールダウン

したただけだ(内装レイアウトの

違いなどはあるが)。これが今

に続く「オークサイド」の誕生



今月の 匠たち

大湊正衛さん

●11年前からカトーモーターで家具製造を担当する。「細かいのは難しいけど、できないものはないよ」。家具製作40年の大ベテランである

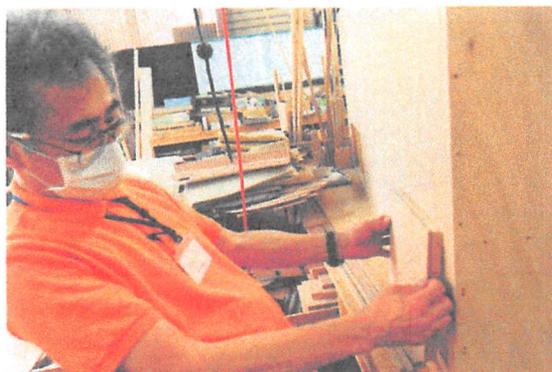


●このアイロンは木材を接着するためのものだが、加藤代表のお母様の嫁入り道具なのだとか

今月の 匠たち

佐藤匠夫さん

●佐藤さんも、大湊さんと同じく11年前に入社。どうしてもカトーモーターの家具作りがしたいと、わざわざ職業訓練校で技術を習得したという努力の人だ



だった。しかしながら、この車両も家具類を外注としたため、注文が増えるにしたがって納期が遅延することは明白。それに対応するため、自社一貫製造としたのが今から16年前のことである。家具製作のプロを自社に招き入れたのだ。

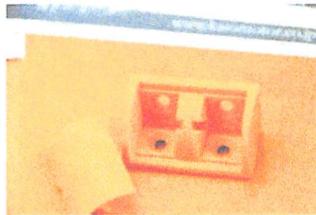
タンクなどを作っていたスタッフは、キャンピングカーの内装はお手のもの。クルマの個体差に合わせて家具の微調整を行なうことができるから内装にスキがないのだ。家具の素材がこれまた手間のかかる素材を使用している。おもに国内産のナラを使ったつき板と呼ばれる製法を用いたそれは、ナラの木を薄く削り心材に張り付けて板状にしたものだ。軽さと天然木の風合いを兼ね備え、使うほどに味が出るが、1台のキャンピングカーに同じ木を使用しないと色みが変わってしまったら、木目が異なってしまうと扱いが面倒である。

ほかにもデッドスペースには断熱材を欠かすことがなかったり、床にはコンパネを敷いた後に断熱材、ウレタンフォームを載せ、その上に重歩行用のクッションフロアでフィニッシュとするなど、製作には非常に手間がかかっている。いわずもがな、夏涼しく冬暖かく過ごすための

家具だけにあらず、すべて自社製造



●カトーマーターのキャブコンはモノコック構造ではなくスチールのフレーム製である。耐久性や万が一の事故の際を考慮しての製法だ。ベースから立ち上がるフレームは切りかきを設けて、溶接しろを多く取るとともに、FRPパネルをかぶせやすいツライチ仕上げとなっている



●カトーマーターでは、こうした細かいパーツの単品販売も行なっている。ほかにもタイマー付きのベンチレーターファンコントローラーなど、ほかにはありそうでない技ありのグッズはホームページより購入が可能だ



●整頓されたファクトリー。計7台の製作が同時進行



●ランドクルーザーブレードをベースとしたフォーシーズン。開口部を大きく内装もフルオーダーという、カトーマーターの車両を数台乗り継ぐ常連さんのクルマだ



●縫製も自社で行なっている。シートカバーやカーテン、あらゆるものすべてだ

工夫である。

これらは内装の一部分だけの紹介でしかなく、車体作りにもさまざまなノウハウを持っている。にもかかわらず、カトーマーターはこれらを最近まで特に出たっていないかった。

「キャンピングカービルダーにとつてこれが普通だと思っただけです。特に説明する必要もないかなど。最近になってこういう作り方が特別なんだと意識し始めました。1台1台でいいいに。こだわりすぎても独り善がりになってしまうのですが、できるかぎりユーザーの目線に立つて、飽きがこず長く快適に使えるものという視点でウチはクルマ作りをしています。1つくらいそんなキャンピングカービルダーがあってもいいんじゃないかなと思いますよ」

カトーマーターは、製作から納車まで約半年の納期を設定している。つまり注文をもらってから材料を吟味、確保し、製作するということだ。やってくるユーザーはそのところをよくわかっていて、どこかしらのレイアウトを変更して自分仕様を製作してもらうのだという。まるでキャンピングカーのオーダーメイド。確かにそんなキャンピングカービルダーがあってもいい。